

## 1. 研究主題

### (1) 研究テーマ

「学びをデザインする力を育てる

—主体的・対話的な授業の実現に向けたカリキュラム・マネジメント—

### (2) 研究テーマの解説

本校の研究テーマ「学びをデザインする力を育てる」とは、教師が児童の学びの過程を見通し、単元や授業を意図的に構想し、具体化していく力を指すとともに、児童自身が学び方を身に付け、自ら学びを選択し、進めていく力を育てることを目指すものである。

本研究では、この「学びをデザインする力」を、主体的・対話的な学びを基盤としながら、カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れて育成する。すなわち、単元や授業を教科内にとどめるのではなく、他教科や既習内容、生活とのつながりを意識して構成し、児童が学びを広げたり深めたりしていく学習過程を重視する。

また、単元や授業の中で、児童が問いをもったり、考えをつないだり、深めたりする学びの過程が生まれるように働きかけることを大切にする。これにより、児童が学びの進め方に気づき、自ら学びを進めようとする姿の育成を図る。

さらに、授業においては、児童が学び方を選択したり、振り返ったりしながら学びを調整する場面を設定し、学びを自分ごととして捉える力を育てる。これらの取組を通して、児童が自ら学びをデザインし、学び続けていく姿の実現を目指す。

### (3) 研究テーマ設定の理由

本校では、これまで国語科を基軸とした研究に取り組んできたが、その成果と課題を踏まえ、2025年度より研究テーマを「学びをデザインする力を育てる」へと転換した。本年度はその2年目にあたり、これまでの実践を発展させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を一層推進していく段階にある。

なお、本研究においても、これまで培ってきた国語科の学習を基盤とすることを重視している。特に、言葉を通して考えを深めたり表現したりする力は、すべての教科の学びを支えるものであり、引き続き研究の中心に位置付ける。その上で、国語科で育成した力を他教科や生活の場面へと関連付けていくことで、教科横断的な学びの充実を図り、学習内容を他の場面でも活用できる力の育成につなげていく。

2025年度の校内研究の振り返りからは、教科横断的な視点を取り入れた学びのつながりや、対話的な学習活動、児童の選択を取り入れた授業づくりなどにおいて実践の広がりが見られた。一方で、学年間や教師間での実践のばらつきや、授業を見る視点の共有不足といった課題が明らかとなった。また、主体的な学びの実現に向けては、児童が与えられた課題には取り組めるものの、自ら問いをもち学習に向かう姿には至っていないという実態が見られた。さら

に、カリキュラム・マネジメントについても、その具体的な在り方や実践のイメージが十分に共有されておらず、取組に戸惑いが見られる状況であった。このような課題を踏まえると、学びをどのように構造的に捉え、どのように授業として具現化していくのかについて、学校全体で共通理解を図る必要がある。

一方、次期学習指導要領に向けた議論においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現の具体化に加え、「多様性の包摂」や「実現可能性の確保」が示されている。また、知識及び技能と、思考力・判断力・表現力等を関連付け、他の学習や生活の場面でも活用できる資質・能力の育成が重視されている。これらの方向性は、本校の課題の解決と深く関わるものである。すなわち、学びの構造を明確にし、知識と思考を結び付ける授業づくりを進めること、児童が自ら問いをもち学びに向かう姿を育てること、さらには多様な児童に応じた学びを実現することは、いずれも本校の課題を乗り越えるために必要な視点である。

以上のことから、本校では、これまでの実践を基盤としつつ、学びを構造的に捉え、教師が意図的に授業をデザインする力を高めることを通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることを目的として、本研究テーマを設定した。

## 2. 目指す児童像

2025 年度の児童の実態を踏まえ、意欲的に学びに向かい、他者と関わりながら活動する姿を基盤としつつ、学びをより主体的・深いものへと高めていく必要があると捉えた。そこで本研究では、児童が自ら問いをもち、見通しをもって学びを進めるとともに、対話を通して考えを広げたり深めたりしながら、学習内容を他の場面にも活用していくことができる姿を目指す。また、自分の学びを振り返り、必要に応じて見直したり調整したりするなど、学びを自分ごととして捉え、粘り強く取り組むことができる児童の育成を目指す。

### 自ら問いをもち、学びをつなぎ、深め続ける児童

	低学年	中学年	高学年
問いをもち	「なぜ？」「もっと知りたい」と問う	既習とつなげて新たな問いをもち	自ら課題を見だし、問いを更新する
つなぐ	自分の考えと友達の考えを比べる	既習や経験とつなげて考える	学びを生活や社会と結び付ける
深める	友達と話して考えを広げる	理由をもとに考えを比較し、深める	考えを見直し、よりよい考えにする
活用する	学んだことまねしたり、繰り返しつかったりする (再現)	学んだことを使って、考えたり説明したりする (応用)	学んだことを生活や社会に活かし、発信する (転移)

### 3.研究の進め方

#### (1)研究の重点

##### 1.国語科を中心としながら、カリキュラム・マネジメント(教科横断的な視点)をしなが、授業づくりを行う

国語科はすべての学習の基盤となる教科であり、言語活動の充実を通じて、他教科の学びを支える力を育むことができる。そのため、教科横断的な視点を生かし、国語科の学習を他教科と関連付けることで、児童が学びを深め、より主体的に取り組める授業を設計する。

具体的には、社会科や理科の内容と連携し、説明文の構成を学ぶ際に実際の調査活動を取り入れる、総合的な学習の時間と連動させて地域の課題について意見をまとめる活動を行うなど、実生活や他教科と結びつけた学びを展開する。また、児童同士の対話を促進し、多様な視点から考える機会を増やしていく。国語科を基軸としながらも、他教科と有機的に結びつけることで、児童が自ら問いをもち、学びを深める授業づくりを目指す。

##### 2. 学びを支える関係づくりと対話の充実を図る

児童が安心して自分の考えを表現し、他者の考えを受け止めながら学びを深めることができるよう、学びを支える関係づくりを重視する。そのために、これまで活用してきたUDチェックシートを継続して用い、すべての児童が学びに参加できる環境を整える。具体的には、見通しをもたせる、視覚化する、活動を焦点化するなどの視点から授業を見直し、分かりやすく学びやすい授業づくりを行う。

また、対話の質を高めるために、校内で統一した対話シートを活用するとともに、「質問する」「予想する」「共通点を見いだす」「再現する」「批判する」「納得する・称賛する」といった対話の視点を明確にする。これにより、児童が理由や根拠をもとに自分の考えを伝えたり、他者の考えと比較・検討したりする対話を通して、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

さらに、対話を理解・共有にとどまる段階から、考えを揺さぶり再構築する段階へと高めていくことを目指し、発達段階に応じた言葉かけや対話の型を意図的に位置付ける。

これらの取組を通して、すべての児童が安心して学びに参加し、対話を通して学びを深めることができる学習環境の実現を目指す。

## (2) 授業づくりの手立て

### ① 単元をデザインするためのプロセス

構想 (資質・能力)	設計 (学習設計)	展開 (学習過程)	活用・振り返り (学習成果)
何を指すか どんな力をつけるか	どのように設計するか どう実現するか	どのように学ぶか	何ができるようになるか
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童につけたい力をもとに、単元で育みたい資質・能力を明確にする</li> <li>児童の実態・既習・生活経験を踏まえ単元全体の学びの姿を描く</li> <li>児童が目的意識をもって学びに向かうための、魅力あるゴールをデザインする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴールに至るために必要な学習内容を整理しする。</li> <li>教材・言語活動を選択し、学習の流れを構成する</li> <li>国語科を核に、他教科・既習・生活とのつながりを教科横断の視点でデザインする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問いをもつ→つなぐ→深める学びの流れを位置づける</li> <li>対話や比較を通して、考えを広げ、深める場面をデザインする</li> <li>問いを見直し、更新する学びの過程を組み込む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだことを使って説明・表現する場を設定する。</li> <li>学習の過程や成果を振り返る視点を示し、児童が自身の成長や課題に気付けるようにする</li> <li>振り返りを次の問いや学習につなげ、学びが継続・発展するようデザインする</li> </ul>

上図に示した単元構想の枠組みに基づき、単元の作り方を示す。単元の構想にあたっては、「何を指すか」「どのように設計するか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という視点から学びの全体像を捉えるとともに、「問いをもつ」「つなぐ」「深める」「活用する」という学びの流れを基盤として単元をデザインする。その上で、展開における授業の具体を示す。

導入では、児童が「なぜだろう」「もっと知りたい」と問いをもつ場面を設定し、実態や既習、生活経験をもとに学習への見通しをもたせる。展開では、既習や経験、友達の考えとつなげて考える活動を位置付け、対話を通して考えを比べたり理由をもとに説明したりすることで、考えを広げたり見直したりしながら学びを深める。教師はこれらの場面を意図的に設定し、学びが表面的な理解にとどまらないよう働きかける。また、問いを見直し更新する場面を繰り返し位置付けることで、児童が自ら問いをもち直しながら学びを深めていく過程を支える。

さらに、単元の終末における振り返りは、学びを次へとつなぐ上で重要な役割をもつ。学んだことを使って説明・表現する活動とともに、学びの過程や成果を振り返り、自分の成長や課題に気付かせることで、学びを他の場面に生かそうとする意識を高める。

このように、単元全体を通して、問いをもつ場面、つなぐ場面、深める場面、活用する場面を意図的に配置するとともに、振り返りや学び方の選択の場面を位置付けることで、児童が主体的に学びを進めることができる単元を構想する。

## ②深い学びの充実を図る共通ツール

### 対話のひな型

低学年は、安心して話す・つながることを重視する。

中学年は、考えを整理して、広げる対話を設定する。

高学年では、考えを深め、価値づける対話活動の充実を図る。

はなしてつながることば <small>低</small>	
きく	どう おもったの？ なんで そうおもったの？
まねる	OOって こと？ どういうこと？
おなじ	同じだね にているね いっしょだね
ちがう	ちがうところもあるね ほかにもある？
いいね	すごいね そのかんがえ いいね

かんが ひろく たいりょ 考えを広げる対話ことば <small>中</small>	
使う言葉	
質問する	それってどういう意味？ どこからそう考えたの？
たしかめる	OOって、こういうこと？ つまり、OOってこと？
つなげる	同じところはここだね ここは似ているね
まとめる	OOさんの考えは、～ってことだね まとめると～だね。
つけくわえる	他にもOOがあるよ つけ足すとOOもあるよ
みとめる	そこに気づいたのがいいね 新しい考え方だね

考えを深める対話ことば <small>高</small>		
使う言葉		
質問する	それってどういう意味？ どこからそう考えたの？	理由や根拠を はっきり させる。
確かめる (予想)	OOって、こういうこと？ つまり、OOってこと？	相手の考えを 正しくつかむ
つなげる (共通)	同じところはここだね ここは似ているね	考えをつなげる 広げる
まとめる (再現)	OOさんの考えは、～ってことだね まとめると～だね。	考えをわかりやすく 整理する
深める (批判)	でも、これも考えられない？ それだとOOの場合はどうなるの？	考えをより 深くする
納得する	その意見に納得しました それ、いい考えだと思う	自分の考えを まとめる
みとめる (称賛)	そこに気づいたのがいいね 新しい考え方だね	学びや気づきを 認め合う

### ふりかえりのひな型

他教科でも活用できる汎用性のあるものとしている。特に、次期指導要領で重視されている自己調整(自分で学びを進める)・学びの転換(他に生かす)・メタ認知(学び方を自身で見直す)の視点を、対話活動についてのふりかえりを追加している。

低学年
①できたこと・できなかったこと
②わかったこと・びっくりしたこと
③つぎにやってみたいこと
④がんばったこと

中学年
①学んだこと(できたこと・できなかったこと)
②今日の学習で分かったこと・気づいたこと
③次にやってみたいこと
④学びの中で工夫したこと(話し方・聞き方・考え方・対話など)
⑤友だちとの交流を通して変わった考え

### 3校合同での取り組み

2025年度 共に創る・共に育つ三校の力	
学力向上	伝え合うたびに学びが自分のものになる ～授業にアウトプットの場面を入れよう～
特別支援	サポートファイル・個別の支援計画の統一
生徒指導	三校で生活状況を把握する
教育課程	年間カリキュラムを共有し 系統立てた学習を積み重ねる 学校間で学習内容の発表やZOOMを活用した交流を行う

高学年
①学んだことのまとめ
②今日の学びを通して深まった自分の考え
③次につなげたいこと
④どのように学びを進めたか(話し方・聞き方・考え方・対話など)
⑤友だちとの交流を通して変わった考え

## 学級力アンケート

学級経営・児童理解の手立ての一つとして、学年・クラスで必要に応じて、活用していく。

3年生以上で、1学期に実施する。

## UD チェックシート

既習の学習内容を提示している	必要な時にいつでも、学習内容を振り返ることができるため。
単元・1時間の学習の見通しなどを提示している	見通しを持って学習に取り組むことができるため。
子どもにわかりやすいめあてを提示している	「めあて」は短く提示し、授業中いつでも意識できるようにするため。
ICT(電子黒板、大型プロジェクター、実物投影機など)を活用している	視覚的に分かりやすくなり、児童の思考や理解を助けるため。
図や絵、写真を使うなど掲示物を工夫している	
見やすい板書をしている	重要な語句を目立つ色で示すことで、ポイントが分かりやすくなる。
ノート指導を工夫している(ワークシート)	黒板内容とノート(ワークシート)を関連させることで、「書く」ことが苦手な児童もノートが書きやすくなる。また、ノート指導を行うことで、児童の思考や学習内容の理解を助けるものとなる。
発表の仕方(型)を示している	「はい。〇〇です。」「〇〇さんと似ていて△△です」「〇〇さんに付け加えて□□です。」など、発表の型を示し、発表の仕方を伝える。
子どもの発言や行動を具体的にほめている	何がよかったのかをその場で具体的にほめることで自信につながるとともに、よい行動を定着させる。
ノートや新聞などのまとめ方について、子どもにわかりやすい評価をしている	目に見える賞賛(丸付け、シール等)をし、他の児童に提示することで、子どものやる気を引き出す。また、評価の基準を示すことにより、児童にめあてを持たせることができる。
集中できる時間に配慮して活動を組み立てている	教師の話聞き続けることが苦手な児童も、様々な授業形態を組み合わせることで学習に参加しやすくなる。

### (3) 指導案の書き方 後日提案

### (4) 校内研の取り組み

- ・国語科での研究全体会は年間6本行う。
- ・代表者・代表クラスのみが授業公開をする。
- ・他クラスは下校させる。
- ・プレイ室は、児童の実態に応じ、研究テーマを踏まえた実践を行う。  
年間の中で発表期間を設ける。また、授業公開にあたっては、外部講師を招聘し、プレイ室ならではの学びの在り方や支援の視点について指導助言をうけられるようにする。
- ・専科は学年に属して、研究を進める。
- ・指導案を検討する場に、研究担当と研究部、希望者が参加する。
- ・今宮先生だけでなく、市の指導主事、その他講師にも指導助言をいただく。

### (5) 研究授業を学びの場にする手立て

- ・子どもの学びの姿を見取る
- ・子どもの表情が確認できる場所で見取る
- ・文字言語で記述したものから見取る
- ・自身の授業改善の視点で振り返る

## (6) 研究の評価

- ・指導案・全体研究授業
- ・学校評価アンケート(教師、児童、保護者)に研究テーマに関連する項目を設ける。
- ・教員・児童それぞれに研究アンケートを実施する。
- ・CRT テストの正答率や意識調査
- ・学力テストの記述問題の正答率

## 4. 講師 今宮 信吾 先生(大阪大谷大学 教育学部教育学科 教授)

## 5. 研究計画

### (1) 年次計画

#### 1年次(令和7年度) 本年度

- ・研究テーマを共通理解する。
- ・カリキュラム・マネジメントの理念について学びを深める。
- ・教材研究と授業実践に重点を置いた研究を進める。
- ・カリキュラム・マネジメントした取り組みを各学年で一覧表にまとめる。

#### 2年次(令和8年度)

- ・教材研究に力を入れ授業実践を深め、成果と課題の確認と検証をする。
- ・カリキュラム・マネジメントした取り組みを一覧表に追記する。

#### 3年次(令和9年度)

- ・1.2年次の授業実践をまとめ、研究発表会を行う。
- ・成果と課題を検証し、次年度の方向づけを行う。

### (2) 年間計画

4月30日(木)	研究全体研修会	研究推進部
6月11日(木)	第1回全体研究授業	●年 大阪大谷大学 今宮信吾氏
7月22日(水)	夏季研修会	帝塚山大学 松浪軌道氏
8月21日(金)	笹中校区合同研修会(本校)	研究推進部
9月17日(木)	第2回全体研究授業	●年 市教委
11月18日(水)	第3回全体研究授業	●年 市教委
12月11日(金)	第4回全体研究授業	●年 大阪大谷大学 今宮信吾氏
1月19日(火)	第5回全体研究授業	●年 大阪大谷大学 今宮信吾氏
2月9日(火)	第6回全体研究授業	●年 市教委
2月25日(木)	研究全体研修会	研究推進部

## 6. 授業力向上の取り組み

### (1) 他教科研究授業

- ・コンサルタントを招聘し、指導案や授業についての助言をいただく。
- ・教師同士で授業を見合う場にしていくため、年度当初に授業者と日程を決定する。
- ・授業力の研鑽の場とするため、どの教科でも可とする。
- ・教職5年目以下・本校転任者は必修、それ以外は希望制にする。

### (2) 対話型ミニ講座

- ・授業や学級経営など、気軽に学び合える教師集団を目指した取り組みとする。
- ・年度当初にアンケートを取り、回数・内容を検討する。